

製品名: NSE(13E2)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM14910**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	ENO2
別名	ENO2; Gamma-enolase; 2-phospho-D-glycerate hydro-lyase; Enolase 2; Neural enolase; Neuron-specific enolase; NSE
遺伝子 ID	2026.0
SwissProt ID	P09104
免疫原	NSE の合成ペプチド

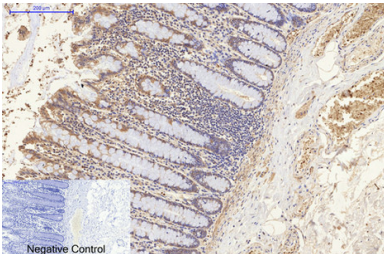
背景

エノラーゼ 2(ENO2) ホモサピエンス この遺伝子は、哺乳類に見られる 3つのエノラーゼアイソザイムのうちの1つをコードしています。このアイソザイムはホモダイマーであり、成熟ニューロンおよびニューロン起源の細胞に存在します。ラットおよび霊長類では、発達過程において神経組織において α エノラーゼから γ エノラーゼへの切り替えが起こります。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: 2-ホスホ-D-グリセリン酸 = ホスホエノールピルビン酸 + H(2)O、補因子: マグネシウム。触媒作用および二量体の安定化に必要。、発達段階: 個体発生の過程で、横紋筋細胞では α/α ホモ二量体から α/β ヘテロ二量体へ、神経細胞では α/γ ヘテロ二量体へと遷移する。、機能: 中枢神経系 (CNS) ニューロンの広範囲にわたり、神経栄養作用および神経保護作用を有する。カルシウム依存的に培養された大脳新皮質ニューロンに結合し、細胞生存を促進する。、誘導: 心血管事故、脳外傷、脳腫瘍、およびクロイツフェルト・ヤコブ病では、ENO2レベルが劇的に上昇する。、経路: 炭水化物の分解、解糖 D-グリセルアルデヒド 3-リン酸からピルビン酸を生成する: ステップ 4/5。、類似性: エノラーゼファミリーに属する。、細胞内局在: ホモ二量体 (α/α) またはヘテロ二量体 (α/γ) のいずれの形態でも細胞膜に移行できる。、サブユニット: 哺乳類のエノラーゼは、 α 、 β 、 γ の3つのアイソザイムサブユニットから構成され、細胞の種類や発達に特異的なホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する。、組織特異性: α/α ホモ二量体は胚およびほとんどの成体組織で発現する。 α/β ヘテロ二量体と β/β ホモ二量体は横紋筋に、 α/γ ヘテロ二量体と γ/γ ホモ二量体はニューロンに発現する。、

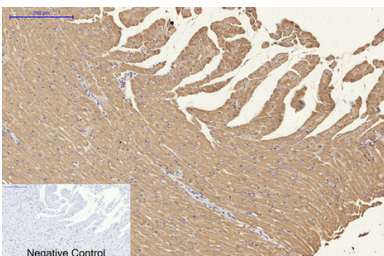
研究分野

解糖系/糖新生;RNA 分解;

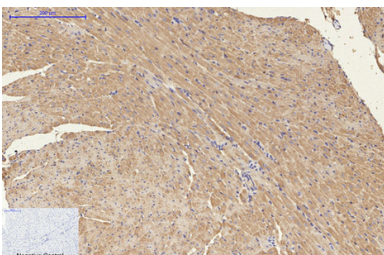
画像データ



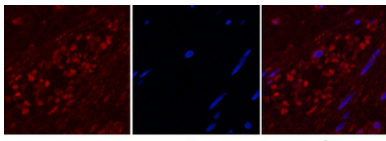
パラフィン包埋ヒト結腸組織の免疫組織化学染色。1. NSEモノクローナル抗体 (13E2) を1:200に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



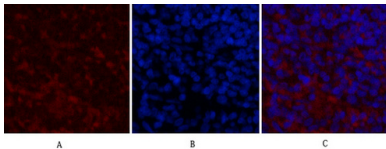
パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. NSEモノクローナル抗体 (13E2) を1:200に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



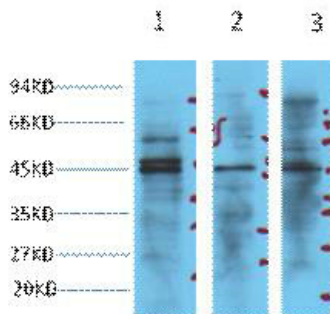
パラフィン包埋マウス心臓組織の免疫組織化学染色。1. NSEモノクローナル抗体 (13E2) を1:200に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



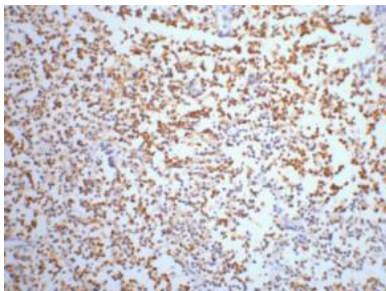
ヒト虫垂組織の免疫蛍光染色。1, NSEモノクローナル抗体 (13E2) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



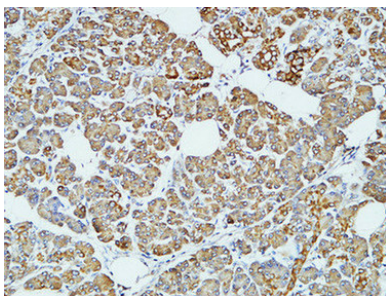
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, NSEモノクローナル抗体 (13E2) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



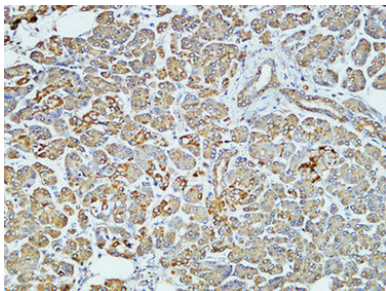
1) HeLa、2) Jurkat、3) 293T 細胞溶解物を 1:3000 に希釈したウエスタンブロット分析。



ヒト肺組織の小細胞癌の IHC 染色 (1:200 に希釈)。



パラフィン包埋ヒト膵臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト膵臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。